

日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会 PRA 品質確保分科会
第 38 回会合議事録

日時：2021 年 7 月 21 日（水）13:30～15:30

場所：Cisco WebEx Meeting による Web 会議

出席者（敬称略）

委員：桐本主査（電中研），藤崎幹事（関電），木村（日立 GE），倉本（NEL），
小森（東芝 ESS），齋藤（東電 HD），櫻井（原電），田中（MHI），玉木（中部
電），日高（テプシス），吉田（JAEA）

11 名出席

常時参加者：寺崎（九電）山本（原電エンジニアリング）

常時参加者候補：竹次（関電）

傍聴者：なし

欠席委員：糸井（東大），

配付資料：

RK4SC38-1：第 37 回 PRA 品質確保分科会議事録案

RK4SC38-2：人事について

RK4SC38-3-1 IRIDM 標準英訳版作成の進め方

RK4SC38-3-2 IRIDM 標準英訳版作業ワークシート

RK4SC38-3-3 IRIDM 標準英訳版目次（2021/7/12 時点）

RK4SC38-3-4 IRIDM 標準英訳版 共有すべき用語・表現

RK4SC38-4：標準における基準と指針の定義，リスク専門部会における標準の階層化の
整理

RK4SC38-5：「共通要求事項に関する学会標準」へのエラー対応の取り込み【提案】

RK4SC38-6：分科会スケジュール案

議事：

1. 定足数の確認

委員 12 名中 11 名が出席しており，本会議が議決に必要な定足数を満足していることが
確認された。

2. 人事について

常時参加者として竹次秀一氏（関電）の登録が全会一致で承認された。

3. 前回議事録の確認（RK4SC38-1）

RK4SC38-1 に基づき，第 37 回分科会の議事録を確認し，正式版とすることが了承され
た。

4. IRIDM 標準英訳版作成の進め方について（RK4SC38-3-1～3-4）

RK4SC38-3-1～3-4 に基づき，倉本委員から IRIDM 標準英訳版作成の現状及び今後のス
ケジュールについて説明された。統合的安全性向上分科会の IRIDM 検討チームでの検討
では、当分科会が担当する附属書（参考）及び解説については、用語の統一に伴う修正
はあるがほぼ原案のまま第 1 案とされたこと、今後は、9 月頃を目途に RK4SC38-3-4 の
「共有すべき用語・表現」を反映した第 2 案の作成に進むこと等の検討状況について情報
の共有が成された。

5. 標準の階層化について (RK4SC38-4)

RK4SC38-4に基づき、桐本主査から標準における基準と指針の定義、リスク専門部会における標準の階層化の整理に係る検討状況の説明があった。主要な質疑応答内容は次の通り。

- ▶ 標準における基準と指針の定義については、標準委員会の基本戦略タスク内のWGで検討しているものであり、次回のリスク専門部会においても説明し、そこでの意見を反映して、基本戦略タスクから各専門部会に意見を求める流れになる。
- ▶ 標準階層化の整理については、リスク評価関係の標準に限定して付議・説明を行う予定である。
- ▶ 「共通要求事項に関する標準」については、本件に関連する検討事項はないと考えており、並行して付議すれば良いとの認識である。
- ▶ 国からの性能要求について、現状の基準をベースに検討を進めることになると考えている。

6. 「共通要求事項に関する学会標準」へのエラー対応の取り込みについて (RK4SC38-5)

RK4SC38-5に基づき、齋藤委員より「共通要求事項に関する学会標準」へのエラー対応の取り込みに係る提案があった。提案内容は、今後の安全性向上評価等を見据えて、PRAでのエラーが確認された場合の対応を明確にすることを目的として、基準本文の6.2項にエラーへの対応の明記することである。エラーの対応を標準に反映するにあたり、エラーの定義を注釈などの形式で明記する必要があるとして、定義について検討することとなった。

7. 今後のスケジュール (RK4SC38-6)

RK4SC38-6に基づき、今後のスケジュールについて説明があった。「共通要求事項に関する学会標準」については、11月開催予定のリスク専門部会での中間報告を目指して作業を進めることとなった。

8 次回分科会日程

次回分科会は、10月21日(木)PMに開催することとした。

以 上